

## 小児病院に入院中の子供の親に 対する支援のシステムを構築し、 問題点を検討する

小林 桂子 後藤 美枝子 西條 康子  
高野 美智子 成田 とし子 大類 紀子

要約：国立小児病院の入院患者で、きょうだいがいた家族87名から、面会時の対応についてアンケート調査を行った。そのうち、お見舞いボランティアを利用した7名を含め、利用しての感想などを調査した。その結果、問題点として、1. 場所が適切でない、2. 設備・備品が揃っていない、3. 子供をみってくれる人が定期的でない、ということがあげられた。それらの問題点に対して、施設としては、各年齢層の子供が飽きずに、安全に待っていただける対応が必要であると考えた。

見出し語：親に対する支援、患者のきょうだい、アンケート調査、お見舞いボランティア

### 【はじめに】

平成6年度、同研究班が実施した調査の結果から、他の子供を預ける所が病院の中に欲しかった、通院や面会時に、他のきょうだいのことが心配等があげられた。

今回、院内にお見舞いボランティアを導入し待合場所で面会と一緒に来るきょうだいの遊び相手等をしていただくことを試みた。そこで、家族から感想、要望などのアンケート調査をした。アンケートの結果から、現状での問題点を明らかにして対応策を考察する。

### 【当院における面会の現状】

面会は毎日14時から17時まで、原則として両親と15歳以上のきょうだいとなっている15歳未満のきょうだいの面会は感染予防上、断っている。

面会に連れてきたきょうだいの待っている場所は各フロアの待合室（パーテーションで仕切られている。面積17.7㎡）である。待合室は4人がけの長椅子が5脚置いてある。

連れてきた子供は、1人または他のきょうだいと、持参した本を読んだり、おもちゃで遊んで待っている。また、病棟前の廊下を走りまわっている。家族は面会の途中で子供の様子を見

---

国立小児病院 看護部

(National children's hospital)

にもどるといふ状況である。

ボランティア導入については、平成7年9月からボランティア規定により、数種類のボランティアの一つとしてお見舞いボランティアを導入した。面接、健康診断を経て受け入れ、現在25名が登録し、事前に来院日と人数の予定について連絡が入る。人数は1人か2人で来院日は不定期である。約束した日に止むを得ず休む場合もある。

#### 【対象および方法】

国立小児病院に1995年12/18～12/27までの入院患者のなかで、きょうだいがいた患者87名（その内7名がボランティア利用）の親からアンケート調査をした。

#### 【結果】

##### 1. 対象の概要

入院している子供の年齢は、乳幼児が55名（63.2%）を占める。66名（75.9%）が核家族であり、2人きょうだいが59名、（67.9%）で、きょうだいの年齢は、乳幼児が44名（38.0%）であった。

##### 2. 面会時のきょうだいの対応について

毎日面会にくる家族が68名（78.2%）できょうだいを連れてくる家族は32名（36.8%）である。近所の人に頼んでくる家族は21名（24.1%）、子供だけで留守番をしている家族も25名（28.7%）いた。

##### 3. 面会時のきょうだいの待っている場所 設備・備品について

場所については、決まった場所があるとよいが58名（66.7%）、病棟から近い方がよいが31名（35.6%）であった。

ボランティアを利用した人からも、もっとスペースがあればよい、目の離せない子を預けられる環境ではない、子供が遊べる環境がよいなどの感想があった。

設備・備品については、ビデオがみれるとよいが45名（51.7%）、玩具があるとよいが40名（46%）、テレビがあるとよい、プレールームがあるとよい、がそれぞれ34名（39.1%）で他にも12項目にわたり希望があった。

##### 4. ボランティアを利用して

7名の利用者より、利用しての感想・預けた子供の反応・今後の要望などを調査した。

感想として、ほっとした3名、信頼した2名、気兼ねがあった4名、不安だった2名というようにプラス因子とマイナス因子が半々であった。子供の反応もあずけた子供が3ヵ月から9才までと幅広く、反応が様々である

ボランティアの人数は、現状で良いという家族は1名で、4名がいまより多い方がよいと答えている。

時間については、現状でよいと答えているのが1名で、毎日いてほしいと答えた家族が8名いた。

その他の要望として、頼んだことがはっきりすることや、ボランティアであることの証明などがあがっている。

### 【考察】

今回のアンケート結果から、次の3点について述べる。

まず、場所については、病棟の近くに安全に遊んで待っていただける所が要求され、プレールームのような場所が望まれる。

設備・備品については、冷暖房が完備し、トイレが近くにあることが望まれる。そして0歳から15歳まで利用できるように、ベビーベッド、授乳設備、読書や勉強できる部屋があり子供が飽きないように、おもちゃ、ビデオ、テレビ、絵本などが備わっていると良い。

人については、安心して面会できるように毎日14時から17時30分まで保育してくれる人が最低2人ぐらいいると良い。できれば保育の経験のある人が望ましい。

ボランティアについては、システム化するには、かなりの人数が必要である。また、面会のきょうだいが多くなると、数人では対応が困難である。

安全に遊べるよう、各年齢層の子供にあった設備・備品については、上記で述べたが、その他に、口頭だけでの子供の受け渡しは不安があり、氏名・親の面会場所などが書かれた名札を使用するなどして、何かあった時に連絡できるよう工夫が必要である。また、迷子にも気をつけなければならない。

受け入れ側としては、ボランティアに感謝の気持ちを示すことや、意見交換を多く持ち問題点・要望などを聞き、改善できることは改善していく姿勢が大切である。

以上のことから、面会時間に、各年齢層の

子供が、飽きずに待っていただけることができるように、施設として何らかの対応が必要と考える。

表1 アンケート結果

【対象の概要】

1. 入院中の患者87名について

(1) 年齢

0～1才	: 5名 (5.7%)
1～6才	: 50名 (57.5%)
6～12才	: 22名 (25.3%)
12才～	: 9名 (10.4%)
無回答	: 1名 (1.1%)

2. 同居している家族について

(1)

両親のみ	: 66名 (75.9%)
両親・祖父母	: 8名 (9.2%)
両親・祖母	: 7名 (8.1%)
両親・祖父	: 1名 (1.1%)
母のみ	: 1名 (1.1%)
無回答	: 3名 (3.5%)

(2)

二人きょうだい	: 59名 (67.9%)
三人きょうだい	: 21名 (24.2%)
四人きょうだい	: 6名 (6.9%)

(3) きょうだいの年齢について

0～1才	: 13名 (11.4%)
1～6才	: 31名 (27.2%)
6～12才	: 53名 (46.5%)
12才～	: 17名 (14.9%)

【面会時のきょうだいの対応について】

1. 面会の回数について

毎日	: 68名 (78.2%)
4回/週	: 7名 (8.1%)
2回/週	: 6名 (6.9%)
3回/週	: 3名 (3.4%)
6回/週	: 2名 (2.3%)
2回/月	: 1名 (1.1%)

2. 面会時のきょうだいの対応について

(複数回答)

・実家の祖父母に頼んでくる	: 36名
・病院につれてくる	: 32名
・近所の人に頼んでくる	: 21名
・子供だけで留守番	: 25名
・同居している祖父母に頼んでくる	: 13名
・保育園を利用している	: 13名
・親戚の人に頼んでくる	: 6名
・ベビーシッターを利用している	: 5名
・見てくれる人と一緒にくる	: 4名
・父の仕事に連れて行く	: 2名
・友人に来てもらう	: 2名
・幼稚園の友達に頼んでくる	
・郷里から祖母に来てもらう	
・親が交替でみる	

表2

【ボランティアを利用した人7名について】

## 3. 子供が待っている場所について

(複数回答)

- ・決まった場所があるとよい : 58名
- ・病棟から近い方がよい : 31名
- ・現状でよい : 4名
- ・狭い : 2名
- ・暗い : 1名

## 4. 設備、備品について

(複数回答)

- ・ビデオが見れるとよい : 45名
- ・玩具があるとよい : 40名
- ・テレビがあるとよい : 34名
- ・絵本などがあればよい : 34名
- ・プレールームがあるとよい : 8名
- ・大人の保育者がいればよい : 6名
- ・一時保育が出来るところが  
欲しい : 2名
- ・冷暖房があればよい : 2名
- ・ベビーベッドがあるとよい : 2名
- ・トイレが近くにあればよい
- ・授乳設備が欲しい
- ・読書室や勉強部屋が欲しい
- ・昼寝が出来るスペースがあればよい
- ・マットレスがひいてあるとよい
- ・狭くても落ち着ける場所
- ・保母の資格を持った人がいればよい

## 1. 患者について

- 9M: 1名 2才: 1名 1才: 1名
- 4才: 3名 5才: 1名

## 2. 同居している家族について

(1)

- 両親のみ : 5名
- 両親・祖父母 : 2名

(2)

- 二人きょうだい : 4名
- 三人きょうだい : 2名
- 四人きょうだい : 1名

## 3. ボランティアをどのように知ったか

(複数回答)

- ・連れてきた日に偶然会った : 2名
- ・当院の掲示板で : 2名
- ・声をかけられた : 2名
- ・新聞で見た : 1名
- ・エプロンしている人がいたの  
できいて見た : 1名

## 4. 見てもらった時間

- 1 時間: 2名 30分 : 1名
- 1.5時間: 1名 2時間 : 1名
- 2.5時間: 1名 3時間以上: 1名

表3

5. 利用した感想 (複数回答)

- ア 利用者本人
- ・気兼ねがあった : 4名
  - ・不安だった : 4名
  - ・ほっとした : 3名
  - ・信頼した : 2名
  - ・居てくれると安心である
  - ・もっとスペースがあればよい
  - ・乳児や目の離せない子を預けられる環境ではない

イ 子供の反応

( ) はあずけた子供

- ・楽しかったと言った : 3名  
(6才男児・女児、8才・9才女児 )
- ・家に帰ってから嫌だと言った ( ? )
- ・自分もボランティアになると言った  
(6才女児)
- ・ボランティアの腕の中で眠っていた  
これが姉なら嫌がったと思う (3M)
- ・他の子となじめずポツンとし、尿を  
漏らした (4才女児)
- ・他の子にいじわるされ物をとられた  
(4才女児)
- ・楽しみにし病院に行きたいと言った  
(8才・9才女児)

6. ボランティアの人数について

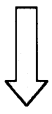
- ・今より多い方がよい : 3名
- ・現状でよい : 2名
- ・無回答 : 2名

7. 時間について (複数回答)

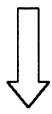
- ・毎日いてほしい : 7名
- ・もっと長い時間いてほしい : 1名
- ・現状でよい : 1名

8. その他要望

- ・頼んだことがはっきりする工夫
- ・いつ居るのかもっと明確に
- ・入院する時ボランティアの制度  
を教えてほしい
- ・子供が遊べる環境がよい
- ・ボランティアであることを証明するも  
のがあればよい。
- ・メッセージボードが各階にあればよい
- ・定期的がよい
- ・きちんとした託児所があればよい
- ・家の近くの公立保育園に預けられるの  
が望ましい



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:国立小児病院の入院患者で、きょうだいがいた家族 87 名から、面会時の対応についてアンケート調査を行った。そのうち、お見舞いボランティアを利用した 7 名を含め、利用しての感想などを調査した。その結果、問題点として、1. 場所が適切でない、2. 設備・備品が揃っていない、3. 子供をみてくれる人が定期的にはいない、ということがあげられた。それらの問題点に対して、施設としては、各年齢層の子供が飽きずに、安全に待っていただける対応が必要であると考えます。